

2023

12-1月

はしかけニューズレター

2023年度 第5号 通巻174号

2023年(令和5年)12月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 鈴木)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
(10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 393人
グループ数 25グループ
(2023年11月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

寒さが一段と厳しくなり、冬本番を迎える季節となりました。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

先月はびわ博フェスが開催され、多くの皆様にご参加いただきました。会場では魅力あふれるイベントが盛りだくさんで、皆様に笑顔と楽しいひとときを提供できたことを心より嬉しく思います。

今月のニューズレターでも、びわ博フェスの様子を詳しくご紹介しております。また、びわ博フェスの余韻を感じながら、様々なテーマにも焦点を当てています。

寒さが一段と厳しさを増してきましたが、ニューズレターを通じて少しでも温かさをお届けできれば幸いです。

以下は事務局からの連絡となります。

■びわ博フェス2023について

本年度のびわ博フェスを11月18日(土)～19日(日)に無事に開催することができました。

はしかけ会員の皆さまには、3分間トーク、ワークショップ、ポスター展示、交流会と大変ご活躍いただき、お陰様で盛況のうちに終わることができました。地域との交流促進やはしかけ制度の活性化やに貢献して頂いたことに心からお礼申し上げます。

次年度もよりよいフェスを目指して、引き続き実のあるフェスが開催できるよう努力していきたいと考えています。アンケートにご協力よろしくお願ひします。

■企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」について

企画展「おこめ展」も11月19日(日)に無事終了することができました。おこめをテーマに、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からの展示によって好評のうちに終わることができました。ありがとうございました。

■クラウドファンディング-水族展示復活へ!トンネル水槽再生にご支援を-

昨年度、ビワコオオナマズを展示していた水槽が突然大破するという大事故が発生し、以後、水族展示室のシンボル「トンネル水槽」も水を抜いた状態が続いています。展示の再開に必要な水槽の亚克力交換の費用には数千円以上が見込まれています。そこで、この度、水族展示復活のため、ふるさと納税型のクラウドファンディングを活用して、費用の一部を募集することにいたしました。びわ博を応援してくださる皆さまと一緒に、水族展示を復活させ、「湖と人間」のよりよい未来を考えるきっかけを作りたいと考えています。なにとぞ、あたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。詳細は下記URLを参照ください。

プロジェクトサイトURL: <https://readyfor.jp/projects/biwahaku2023>

(鈴木 隆仁)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■10月15日(日) 第178回定例調査 場所: 姉川周辺の水路等 参加者: 15名

この日は車に乗り合わせて14時まで調査を行うという、コロナ禍前のスタイルに戻し、3班に分かれて姉川中流域周辺の調査を行いました。朝までの雨も上がって日射しもあったのですが、昼過ぎに一時激しい通り雨もありました。そんな冷たい雨に打たれながら調査を続けた班もあったようです。

どの班も共通してカワムツ・タカハヤ・ドンコなどが多く見られました。あと、いずれの場所でもタイコウチが多く見られ、この夏の気候はタイコウチの繁殖に適した条件が揃っていたのかも知れません。(報告: 高田 昌彦)

■11月12日(日) 水資源機構主催「お魚里帰り大作戦」の支援 場所: 新浜ビオトープ 参加者: 9名

近江大橋のもとにある「新浜ビオトープ」は、開発により失われたフナ等の魚類の繁殖場所として整備された、琵琶湖に隣接する池状の水域です。「お魚里帰り大作戦」は、この新浜ビオトープの池干しの際に取り残された魚たちを採集し、琵琶湖に放流するイベントです。

今年はおの会からボランティアスタッフとして9名が参加し、一般参加者の方に魚の採りかたを教えたり、採れた魚の運搬や集計を手伝ったりしました。80cm近いコイ、多数のフナ類稚魚、40cm近いニゴロブナなど魚類は10数種、合計100尾以上確認され、採集後には琵琶湖博物館/滋賀県自然環境保全課の中井克樹さんと私(中尾)で、参加者の皆さんに魚の特徴などをお話しました。ちなみに年によっては軽く1000尾を超えるので、今年の採集尾数は少なめでした。

参加者もスタッフも、魚が跳ねあげる泥を全身に浴びつつ、魚採りを楽しんだイベントでした。今回参加出来なかった方、来年ぜひご参加下さい。(報告: 中尾博行)

【今後の予定】

12月は野洲川周辺の調査、それ以降は勉強会等を予定しています。詳細はメールにてお知らせします。



「お魚里帰り大作戦」で採れた生き物たち①



「お魚里帰り大作戦」で採れた生き物たち②



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

別件で以下の活動を実施した。

9月26日(火)参加者2名 MIHO MUSEUM2023 年秋季特別展『金峯山の遺宝と神仏』を拝観。

10月7日(土)滋賀県主催の「たな友草刈り講習会&交流会」を今郷棚田で開催した。参加者はたな友ボランティア、滋賀県、JA こうか、こなんの森・薪割りくらぶ、立命館大学も合わせて28名で実施した。

10月14日(土)立命館大学食・マネジメント学部のフィールドワークを今郷棚田で実施した。みなくち子どもの森自然館学芸員の解説で今郷棚田の生き物観察を行い、生物多様性を実感した。また、竹の食器を使った新米の食べ比べなど食に関する調査や体験も行った。参加者は総勢41名。

10月16日(月)大原同苗講の研究者と調査を実施。甲賀町に残されている江戸時代の大原篠山氏の墓石を調査した。参加者3名。

11月15日(水)今郷棚田集落協定の活動で自然環境の保護保全活動を行っていることから、BBCびわ湖放送の番組「琵琶湖まんだら」のインタビューを受けた。今郷棚田の希少種や生物多様性について話した。

11月22日(水)甲賀忍術研究会で大原同苗講の研究者が講演を行った。参加者は25名。10月6日の調査結果についても報告された。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■2023年10月15日(日) 花緑公園 参加者2名

秋の穏やかな一日を花緑公園でスケッチや吟行をして楽しみました。

栗はもうすでに何者かに食べられて毬ばかりが転がっていましたが、いいぎりの実やつり花の実など赤い木の実が目をひきました。

右の写真は公園内で見た藤袴といいぎりです。

■2023年11月19日(日) びわ博フェス 参加者1名

ポスター展示と淡海スケッチの会の活動のご紹介をしました。

<近江 de 俳句>

今年は11月のはじめまで暑い日がみられましたが、やはり秋は吟行のベストシーズンです。

県内の吟行地は初秋から晩秋までフルに歩き回ったとしても巡り切れないくらいたくさんあります。



琵琶湖の湖岸を歩くだけで「水澄む」、「菱紅葉」、「初鴨」、「鳥渡る」、「鶺鴒」、「蜻蛉」、「蟋蟀」、「葦の花」、「茨の実」、「蓼の花」、「落鮎」などたくさんの季語に出会えます。

11月の最初の三連休には、比叡山を背景に雲のように鳥が渡ってゆく姿をみかけました。

博物館のある烏丸半島の入江には毎年たくさんの水鳥が飛来します。今年も楽しみです。



【活動予定】

- 2023年12月17日(日) 琵琶湖博物館 オープンラボ
活動時間 10時30分～(16時)
2024年の活動についてミーティングを行った後、館内でスケッチおよび吟行をします。
- 2024年1月21日(日) 琵琶湖博物館 オープンラボ
活動時間10時30分～(16時)
館内でスケッチおよび吟行。

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員:橋本道範

【活動報告】

- 9月30日(土) 参加者:5名
びわ博フェスの試作品を製作しました。あまり大きいと時間がかかるので、小さめのサイズで作ることになりました。
- 10月14日(土) 参加者:2名
今日はJICAで日本に研修に来られている方々の見学があったため、綿から糸までのワークショップを行いました。綿打弓は今でも使っている、スピンドルの糸紡ぎ(羊毛)は今でもやっている、など珍しいお話が聞けました。道具の名前も教えてもらいましたが、スペイン語だったのでよく聞き取れませんでした。
- 10月25日(水) 参加者:6名
びわ博フェスの準備。いろいろ製作してみました。
- 11月8日(水) 参加者:6名
びわ博フェスの準備。使う道具や毛糸などを用意しました。
- びわ博フェス 11月18日(土)13:00～「毛糸で袋を織ってみよう」
参加者:6名 体験者:10名
今回のワークショップは試作をかさね、なるべく簡単に作れるように試行錯誤しました。ただ製作するのに30分程度かかり、小学生以下のお子さんは途中であきらめたみたいです。単純作業だったせいでしょうか。かわりにお父さん、お母さんが完成させてくれました。今後のワークショップではもっと簡単に作業できるものを考えないと。



【活動予定】

- 織姫の会
12月16日(土)、1月13日(土)、31日(水)、2月7日(水)、24日(土)、
3月6日(水)、23日(土)
- びわたんと共催
12月9日(土)「綿にふれてみよう」

(辻川智代)

11月18日 びわ博フェスのようす



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2023年10月の活動

○湖南省常楽寺付近から阿星山までの林道周辺の調査 (参加者 10名)

日時:10月22日(日) 10:00~15:00

1. 調査目的と調査

火成岩(花崗岩、花崗閃緑岩)と付加体の混在地帯で分布と岩相を観察し、接触変成岩の存在を確認すること。

林道沿いに進み、先ず火成岩。次いで、有色鉱物が目立つ観音寺花崗閃緑岩。引き続き登ると断層?を経て、堆積岩からホルンフェルスに変化する岩相を確認した。午後再び林道を伝いに歩くと、岩相は細かく変化し、火成岩中の捕獲岩様のものや、互層模様が明瞭な堆積岩を見ることができた。

2. 感想

調査会には絶好の天気で、山歩きを楽しみながら調査できたことは何よりだった。地質図では表せない細かい岩相変化を観察できたのは興味深かった。この周辺地域には丹波帯が火成岩に囲まれ孤立した小領域として地質図に出ているが、それらも見てみたいと思った。

○びわ博フェスに向けての準備 — ワークショップの進め方などについての協議 — (参加者 5名)

日時:11月8日(水) 12:30~15:00 実習室1

○びわ博フェスに下記の要領で参加

日時:11月18日・19日

場所:琵琶湖博物館 実習室 1 など

1. 大津の岩石調査隊 ポスター展示

2. ワークショップ「わたしの岩石標本を作ってみよう」19日10:00と11:00から、それぞれ45分ずつ実施。

花崗岩、チャート、石灰岩の三種類の岩石を観察して、観察シートに記入。標本箱を作り、3種類の岩石を入れて、標本ラベルを記入して完成する。

3. 3分間トークに参加。活動内容などのお知らせ。

【今後の活動予定】

■12月 勉強会の予定 日時未定



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■10月29日(土)おでかけ撮影会 in 水口 JR 貴生川駅 10:20~

■11月18日(土)~19日(日)びわ博フェス 2023

撮影クルーとして貢献

【活動予定】

■未定



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) -名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



【活動報告】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑪

日時:9月12日(火) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加人数:3名
活動内容:今回は植物化石のクリーニング作業を行いました。まだまだ多くのクリーニングを待つ化石があり、少し焦る気持ちも湧いてきますが、植物化石20点をクリーニングすることができました。

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑫

日時:10月6日(金) 13:00~16:00
場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加人数:4名
活動内容:引き続き、植物化石のクリーニング作業に取り組みました。小さい化石や壊れやすい化石と向き合うのは集中力が必要ですが、土に覆われた部分から化石の形が見えてきて、メンバーとクリーニングした化石を見せあいながら、これは何だろうと観察する時は、とてもやりがいを感じます。この日は、植物化石20点をクリーニングすることができました。



【オープンラボの顕微鏡の使い方も慣れてきました】

■ワークショップ『粒度表作り』の準備

日時:10月10日(火) 13:00~16:00
場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加人数:2名
活動内容:11月18日のびわ博フェス2023で行うワークショップ『粒度表作り』の準備を行いました。10月22日に粒度表用の土をふるう予定のため、どのくらい土をふるう必要があるか見通しを立てたり、使用するボンドの状態確認や使用物品の在庫状況を確認しました。

■勉強会「粒度表の作成」

日時:10月22日(日) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:7名
活動内容:11月に開催されるびわ博フェスのワークショップで、当グループは昨年に引き続き、粒度表作りを実施するため、それにむけた準備を行いました。ふるい振とう機で土を「極粗粒砂」「粗粒砂」「中粒砂」「細粒砂」「極細粒砂」「粗粒シルト」の6つの粒度に分類し、それぞれの土を小型のジッパー付き袋に封入する作業を行いました。作業の途中、粗粒シルトが不足しそうになる場面もありましたが、粒度表作りを経験している方もおられたため、ふるい振とう機に入れる土の量を極細粒砂~粗粒シルトが多めになるよう調節して、どの粒度の土も過不足なく小型ジッパー付き袋に封入することができました。封入した土は11月18日のワークショップで使用する予定です。また、今回は新規会員も参加され、ふるい振とう機を使ったり、粒度表の作成を行ったりし、実践してもらいながら、粒度表に関する知識、経験を伝えることができました。びわ博フェスでは、ワークショップに参加された方々に粒度表をしっかりと作成してもらっただけでなく、粒度表作りを通じて、地層や古琵琶湖の時代の環境にも興味を持っていただけたらと思います。



【ふるい振とう機を用いて粒度を分類】



【粒度ごとの振り分け作業】



【ワークショップで作成する粒度表】

また、この日は中島経夫先生が活動に参加され、今年度クリーニングに取り組んだ第十次発掘調査の咽頭歯化石を見ていただきました。顕微鏡下で咽頭歯化石を様々な角度に固定しながら、中島先生からフナ属の咽頭歯化石を見分けるポイントについて、詳しく説明を受けました。

■ワークショップ『粒度表作り』の準備

日時:11月14日(火) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ

参加人数: 2名

活動内容: 前回に引き続き、ワークショップ『粒度表作り』の準備を行いました。使用する物品の最終チェックと、整理券や配布物の作成、体験者に向けたパワーポイントによる説明の内容について確認するなど、当日の手順について確認することができました。



【着々と準備が進んでいきます】

■びわ博フェス 2023 への参加

①ポスター展示に参加: アトリウムに活動紹介のポスター2枚を掲示しました。(11月18日・19日の両日掲示)

②ワークショップ『粒度表作り』の実施

日時:11月18日(土) 13:00~13:45 (1回目)・14:00~14:45 (2回目) 各45分間

場所:琵琶湖博物館 実習室1

参加人数:古琵琶湖発掘調査隊 5名

ワークショップ体験者:6名

活動内容:ワークショップ開始前には、より多くの方に参加していただけるよう、アトリウムのポスター前にて、告知や呼び込みを行いました。ワークショップは、前半は古琵琶湖層群や粒度などについてパワーポイントにて説明を行い、後半は実際に粒度表の作成を行いました。

45分間のワークショップでしたが、参加されたお子さん達もとても楽しそうに、また、とてもきれいに粒度表を仕上げておられました。

スタッフとして参加したメンバー達も、体験者の方々と会話をしながら双方向の交流で、とてもやりがいを感じることができるワークショップとなりました。



【粒度ごとに丁寧に土を接着しておられました】

③発表会Ⅱ(3分間トーク)に参加

日時:11月18日(土)15:15~16:00

場所:琵琶湖博物館 セミナー室

活動内容:ワークショップ終了後は、セミナー室で行われた発表会Ⅱ(3分間トーク)に参加しました。

会長と事務局長の2名が、発表者としてインタビュー形式の3分間トークを行いました。

他のグループさんの発表も聞くことができ、他のグループさんの活動について知ることのできる良い機会となりました。

【活動予定】

■服部川での化石観察会

日時:11月26日(日) 10:00~

場所:服部川(三重県伊賀市)



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) -名】

グループ担当職員:妹尾 裕介

急にぐっと寒くなりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。今年の紅葉は遅めですので、これから見ごろを迎える場所が多いかもしれません。さて、ザ! ディスカバはしかけですが、10月1日よりグループ担当職員が変わりました。今年度の下半期は妹尾が担当します。どうぞよろしくお願いいたします。今のところコロナ禍以前のような活動ができていませんが、少しずつ活動ができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【活動報告】はしかけ活動ではありませんが、ディスカバリールームで11/23に「森の宝物をさがそう!」のイベントをしましたので、その報告です。5組、8名の方に参加いただきました。当日は少し暖かさが戻り、皆で楽しく宝物探し、展示のための解説作成を頑張りました。約1か月後には、ディスカバリールーム入り口の「みんなの宝物」へ展示予定です。



【活動予定】

- 新型コロナウイルスによる規制が緩和されたため、今後、ザ！ディスカバはしかけの活動再開を予定しています。活動再開の際にはぜひご参加ください。
- ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております！



【活動報告】

■10月7日(土) 里山体験教室 下見 参加者6名

秋の里山体験教室の下見を行いました。秋の散策ルートを実際に歩いて、何がみれるかを確認しました。秋の散策は春と違い、ガマズミやノイバラなどのかわいい赤い実を見ることができ、赤い実を見ると秋を感じます。そして、下見のときにいつもチェックしているのが、「アケビの実がどこにどれくらいあるのか」ということです。参加者のみなさんにぜひ食べてもらいたいので、歩きながら「ここでたくさん採れそう!」「来週ちようど食べごろかなあ」とアケビの様子を観察しました。アケビだけでなく、今年はクリも少し採れそうな感じでした。とても良い天気で散策がとても気持ちよかったです。



■10月15日(日) 里山体験教室 本番 一般参加者10名 会員4名

前日が雨だったので、開催できるかどうか心配でしたが、当日はだんだんと天気が良くなり、秋の里山を満喫することができました。この日は参加者の方が3組10名と少なかったので、のんびり里山を楽しむことにしました。ハンモックをやる予定でしたが、前日の雨の影響で地面や木の幹が濡れていたため、急きょリースづくりに変更しました。

午前中は、リースの材料になりそうなものを各々集めながらの散策です。楽しみにしていたアケビやクリは、高枝切はさみも使って上のほうも採ったりしました。

午後は、里山整備とリースづくりです。里山整備では、細い雑木を切ってもらいました。きちんと整備をして「はしかけの森」が明るくなったのではないのでしょうか。リースづくりでは、里山で集めてきた材料だけでリースを作りました。アイデア最後は作ったリースを並べてみんなで品評会をしました。それぞれの個性が出ていて、どれもとても素敵でした。これからの季節、ぜひ玄関などに飾ってほしいです。

里山の恵みを感じたり、整備の大切さを感じてもらえていたら嬉しいです。



■11月5日(日) はしかけの森整備&お楽しみ 参加者5名

里山の会「フィールド整備、里山を楽しもう」を行いました。

当日は穏やかな天気にもぐまれ、気になっていた桜の折れ枝を整理。いつもではできないハンモックに揺られ、久しぶりに芋煮鍋をいただき、ゆったりと流れる時間を楽しみました。

このフィールドは、いつもは里山体験教室で使っているところで、里山の会の人だけで楽しむ機会がなかったので、これからはどんどん利用して、スキルを磨いていきたいです!



■11月19日(日) びわ博フェス 参加者6名

自分たちの“はしかけ里山の会”は午後からのワークショップ。

参加者の皆さんには、実験工房のまわりに自生している竹を使った“竹のけん玉作り”に挑戦していただきました。

ひと月ばかり前に自生の竹を切り出し、会員で実際に作ってみて、当日の作業の安全とか作業難易を確認し、19日本番は13時と14時の2回、各5組の家族を想定し準備をしました。

当日は幸いにも天気は爽快青空の下、実験工房の前の広場がいっぱいになるほどでした。すぐに参加満員となり、お断りすることもあって、参加できなかった子どもたちに申し訳なく思った次第です。

でも精一杯11組約30名が“けん玉作り”に挑戦していただきました。懸命に子どもと一緒に鋸を引く親御さん。それに負けじと鋸の使い方を覚えようと挑戦する子供たち。竹の節の真真中に穴を開ける作業。鋸を使うにも子供たちにとっては初めて。鋸を揉んで穴が開いた時などの驚きようは、我々にとっても楽しいひと時でした。むずかしい工程をやり終えて作った作品を大事そうに包んで持ち帰られた親御さんたちにいただいたうれしい挨拶に、我々スタッフも1日楽しい思いをさせていただきました。

ありがとうございました。



【今後の活動予定】

12月24日(日) 凧作り凧あげ・昔遊び



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年は、8月、9月が例年に増しての猛暑。その後、秋の気配はあるものの、日中の気温は20度を超す日が続き・・・。

夏の暑さと秋の異常な気温に負けていたのはヒトだけだったようで、ススキはいつも通り穂を出し、カエデのなかまは11月初めに色づき始めました。しかし、ソメイヨシノの葉が8月に散ってしまったり、ヒガンバナの満開の時期が10日ほど遅れたりしたことは、やはり猛暑の影響が残っていたようです。

【活動報告】

■10月1日(日) 博物館周辺の観察 →湖岸(→みずの森) 10:00~12:00 すぎのはずが・・・参加者 3名

琵琶湖畔の植物観察をするべくスタート。

先日、びわ博の樹冠トレイルの上から見た湖岸のヒシが気に入り、ヒシの実探しが始まった。オニビシとヒシの違いは、実を見るまではわからない。実の出っ張りが2つならばヒシ、出っ張りが3つならばオニビシ。葉の大きさを比べてもさほどの違いはない。株を水に戻してから「オニビシはどれ?」と聞かれてもわからない。実の出っ張りの先には細い棘状のものがあり、それが水鳥の羽根に引っかかって運ばれることを聞き、その棘がある実を夢中で捜した。この棘(とげ)は化石の中でも出てくるそうだ。

サクラタデ(白花、赤花もあり)、マコモ、シロネ、ヤマハッカ、チョウジタデ、オオイヌタデ、ヒレタゴボウ、メリケンムグラ、オオイヌタデ(白花)、マメアサガオ、ホシアサガオ、メリケンムグラ、は、開花、結実。オオフサモ、オオミズキンバイ、ツルノゲイトウのなかまの株があり、外来植物の強さが気になった。一番見たかったゴキヅルは、見つけることができなかった。

普通に歩けば8~10分ほどの距離なのだが、この日は約1時間半かって「みずの森」へ到着。

予定にはなかったのだが、牧野富太郎ゆかりの「ムジナモ」が展示(この日まで)されているとのことで、そのまま3人で来館。色とりどりのスイレンの仲間を見ながら右折し、沢山のハスの種類が植えられている場所へ。ハスはすでに葉



が枯れ蜂巣状の首も下を向き、ちょうど結実した実が落ちる頃だった。何気なく見てみると、「あれっ?!」、ハスの隣にデンジソウの葉がしげり、タヌキモのなかまもヒメコウホネもガガブタも花を咲かせている!3人のテンションは一機にマックスになった。

その後、やっと入館し順路に沿って動いた。まず、水草の水槽を眺めて、前回琵琶湖で見た水草達と照らし合わせて名前を確認。他にはスイレンのなかまや外国産の水草、ウツボカズラ、ブルーゲンビリアが咲いていた。そんな中で興味を引かれたのは、直径約0.8cmのカカオの白い花。落ちていたものを画像で撮りながら観察し、雄しべや雌しべの数、形、色をじっくり見ることが出来た。

温室を出た所で、やっと特別展示の牧野富太郎の原画とムジナモがあった。一休みした後、じっくり原画を見て、実物を見て、また原画を見て…。キリがない…。以前見たタヌキモの捕虫網を思い出すと、タヌキモの形や大きさの違いがよく分かった。「やっと見られたー!」と言いながら時計を見ると、14:30。「やっぱりねー」と3人で苦笑しながら帰路へ。

■11月5日(日) 都合によりお休み

11月18日(土)、19日(日)びわ博フェス。ポスター展示のみ。

今年新たな取り組みとしての3分間トークは、19日(日)10:40~のグループ割り当てになった。



【今後の活動】

■月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。

■外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

■12月3日 持ち寄り観察 10:00~12:30 ごろ 琵琶湖博物館実習室1または2、またはラボ

■1月以降は未定、※8月、2月の活動は、例年お休みしています

■※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第75回総会が、10月15日(日)14:00~16:00に、琵琶湖博物館研究交流室+オンラインのハイブリッド形式で行われました。参加者は10名(うちオンライン1名)でした。今回は「びわ博フェス」への対応や、コロナ禍などの影響で延び延びになっている「珪藻の詰め込み教育」「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」のスケジュール調整が行われました。なおこの日、たんさいぼうの会の元会員で、現在は東大で学んでいる若者2人がふらっと現れ、現在行っている研究のことなどを話してきました。

びわ博フェスでは、今年も11月18日午後から19日まで「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」と共同でマイクロアクアリウムをジャックしました。両グループの会員に「何でもいので好きな小さな生き物を持ってきてください」と言ったところ、海岸付近の砂の隙間で生活する渦鞭毛藻とか、琵琶湖からスズキケイソウと思って単離培養していたら全く違う種だった「タナカケイソウ(仮称)」とか、某公園の池で大発生した新種の疑い濃厚なツメワカケイソウとか、きわめてマイナーな微生物が集まってきて、カオス状態になりました。しかもことごとく小さい。そこで研究室から秘蔵の100倍の対物レンズを持ってきて油浸で観察し、モニタ上に3,000~4,000倍くらいで映し出すようにしました。これがワークショップとして成功だったのかどうかはわかりませんが、ただでさえ非日常の世界であるマイクロアクアリウムを、もっと非日常の中へと引きずり込んだことは間違いありません。19日の午後には、実習室1でワークショップもやりました。こちらでは上記のサンプルに、琵琶湖、ため池、生活実験工房の田んぼ周辺のサンプルなどが加わり、滑走運動で動き回るフナガタケイソウ、ササノハケイソウ、エスガタケイソウ、田んぼで窒素固定をするラン藻のなかま(おそらくトリコルムスカアナベナ)、2mm以上に達するひも状の繊毛虫スピロストルムムなども観察され、いよいよカオス状態になりました。せめて、どの顕微鏡でどのサンプルを見せているのかを明示する必要があったと反省しております。

会員を主著者とする20本目の論文が、珪藻学会誌 *Diatom* に受理されました。

泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介:西日本3河川からの *Cymbella compactiformis* の出現. *Diatom* (印刷中)

「外来珪藻ハンター」泉野会員の、大学院在学中の発見の一つが論文になりました。編集・校正が間に合えば、年末発行の *Diatom* 39巻に掲載される予定です。

会員たちの活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。個人活動も活発です。安達会員は、定期調査をしている堅田内湖で11月初頭、エリツキケイソウの一種 *Sellaphora tanghongquii*(中国からの外来種の可能性あり)が大発生しているのを発見しました。そこで約250殻の長さ幅を計ってグラフにし、大きさが異なる2つの集団があることを明らかにしました。これはおそらく、有性生殖が最近起こっていて、増大胞子をつくってサイズ回復をした殻があるためと考えられます。富会員は、多賀町のアケボノゾウ出土地点周辺の古琵琶湖(蒲生層)の古環境復元に取り組み、論文をまとめつつあります。現在の珪藻の生態情報に基づいて180万年前の湖沼の古環境復元を行うという、きわめて野心的な試みです。西坂会員は、自宅近くの千代川から97種(大塚が確認した限りではあと数種増えそう)の珪藻を見いだして写真を整理、同定しました。どれも素晴らしい研究成果です。しかし、影の会長が館と学会の業務で多忙な上、外来種や新種を含む新発見が次々と持ち込まれてパンクしかかっており、これが会の研究が学会発表や論文公表へと進んでいかない最大の原因になっています。

【活動予定】

たんさいぼうの会第76回総会を、1月中旬に開催します。日程はこれから調整します。ご関心のある方は上記代表アドレスまでご一報を。

「珪藻の詰め込み教育」は、冬休みの宿題として、12月25日頃に影の会長から出題されることになりました。第76回総会時にそれぞれの作品を持ち寄って講評を行います。

「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」は、この秋が皆忙しかったのと、冬期は自動車での滋賀⇄若狭の移動が難しくなることから、2024年4月に延期になりました。第76回総会で具体的な日程を詰めます。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

11月にはいっても最高気温が25度を超える夏日が記録されるなど、厳しい気象条件に見舞われた2023年もあと少しになってしまいました。春先の日照不足と夏の猛暑の影響で、お米の作柄があまりよくない地域もあったようです。田んぼのエビたちにとっても、命をつなぐには厳しい年だったのではないかと心配になります。例年であれば、春に調査した水田の灌漑様式を確認する補足的な調査を10月に行い、その結果を含めて11月に結果報告会を開いていたのですが、この秋は残暑が厳しいために補足的調査は実施できずじまいで、結果報告会も皆さんの都合があわず12月に延期することになりました。

【活動報告】

・2023年11月12日: 琵琶湖博物館の屋上に置いているミニ水田のイネ株を刈り取り、溜まっていた水を排水した上で土を掘り起こして空気にあてる作業をしました。また、土を乾燥させるべく、仮設の屋根を設置しました。

【活動予定】

・2023年12月9日(土)10:00 から、琵琶湖博物館実習室1で本年度の結果報告会を開催します。来年度の調査に向けて活発な議論ができることを期待しています。

(山川 栄樹)





(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<グループの活動について>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

<次回の「タンポポ調査・西日本2025」の調査について>

全体の事務局より、2025年の調査について関係する府県の実行委員会にアンケートが送られてきました。2020年の調査のような西日本の広域にわたる調査の継続が困難なこと、大阪を中心に近畿エリア（十四国）に規模を縮小して実施する可能性もあります。滋賀県は、東西、南北の接点であり、いくつかの種類の生育地の境界にあることから、2025年はもう少し効率的に調査に参加することを前向きに検討していて、おそらく実施することになりそうです。

2025年の調査の実施の前には、2020年の報告書も何らかの形で発行されるとのことですので、今年度中には配布可能になると考えています。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

(文責: 芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆10月の活動 10/18(水) 7組(幼児9名、大人8名)

みんなでクルミ拾いに行きました。秋になり、バンダナおじさんから「オニグルミの実がたくさん落ちているよ」と伺い、バケツを持ってテクテク散歩。いつもは水が溜まっている池が干上がって、クルミの実が拾いやすくなっています。こっちにもあっちにも落ちてくるクルミの実を拾ってはバケツに入れる。子どもも大人もなんとなく楽しい。縄文時代の狩猟採集の遺伝子が残っているのでしょうか。拾ったクルミは、火を通して、クルミ割り器で割って、つまようじで中身を掘り出して、パクリ。ほんのり自然の味が広がりました。

午後には、広い砂浜ホワイトビーチへ。気持ち良い空の下で、どこまでも走れる広さと、山を作っても穴を掘っても限りない砂、さらに大きな琵琶湖を見ながら、好き放題に遊びました。

◆11月の活動 11/15(水) 組

サツマイモ掘りをしました。先月試し掘りをして、小さいなあともう少しかなあと話していましたが、もう11月中旬。今月こそ掘ろうということで、スコップを持って畑へ。土を起こすと、小さな芋がちよろちよろ。ネズミサイズです。小さいですが、畝を掘っていくと少しずつ収穫できました。来月焼き芋しようね。一方キクイモは掘れば掘っただけ収穫できました。収穫がこんなに違うんだと、みんなビックリ。

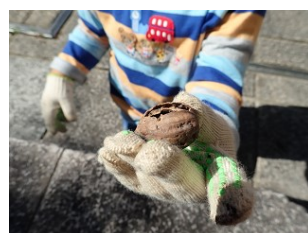
急に寒くなってきたけど、虫たちはどうしているかなあと探して歩くと、ミカンの葉っぱにはアゲハチョウの幼虫が、クスノキにはアオスジアゲハの幼虫と蛹が、田んぼの畔にはイナゴやアカハネオンブバッタがいました。まだまだ生き物たちが生きている姿を親子で楽しむことができました。

◆びわ博フェス 11/18(水) 8組(幼児9名、大人9名)

いつものちこあそは、たっぷり時間を過ごしますが、びわ博フェスでは 10 時、11 時、13 時と時間制で、森や畑の散歩を楽しんでもらうように実施しました。森を探検すると、長いウズのツルが見つかりました。みんなで「うんとこしょどっこいしょ」と引っ張って、それを使って電車ごっこをしたり、ルーペで生き物を観察したり、イチイガシのドングリを拾って炒って食べてみたりと、楽しみました。



10月クルミ拾い



10月ネズミのかじり跡



11月アゲハの幼虫



びわ博フェス クズを引っ張ろう

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12月	12月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
1月	1月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ)19名】

グループ担当職員:大塚 泰介

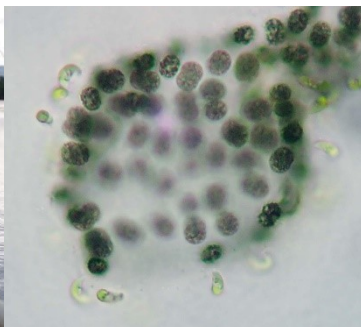
【活動報告】

■ 9月23日(土) 参加者:5名、学芸員:2名

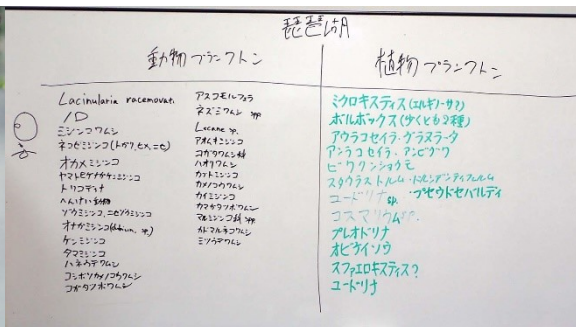
博物館前のプランクトンを観察しました。先月に引き続き夏らしいプランクトンが多く出現していました。



採集の様子



ミクロキスティスとその付着藻



9月23日に観察したプランクトン

■ 10月14日(土) 参加者:7名、学芸員:1名、見学者:多数

今回の活動には JICA、はしかけ新規登録者、大学生と様々な方々が見学に来ていました。特に午前中見学に来ていた JICA の方々には楽しんで頂けたようで当初の予定より長時間の見学になったようです。

普段、博物館前の湖岸で採集すると動物プランクトンより植物プランクトンの方が多様な種が見つかりますが、10月の活動日は植物プランクトンの種数が非常に少なかったです。



見学に来た JICA の方々

扁形動物

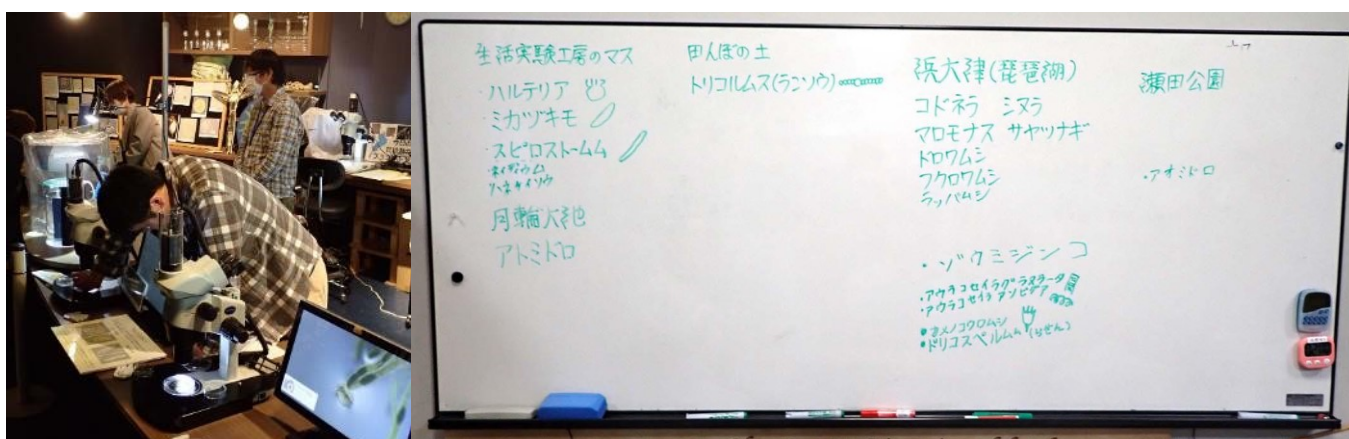
藍藻

10月14日に観察したプランクトン

■ 11月 18日(土),19日(日) 参加者:7名

びわ博フェスでワークショップを行いました。例年と同じくたんさいぼうの会と合同でマイクロバーでプランクトンや推し生物の解説を行いました。また、今年は実習室を借りて来館者に顕微鏡を直接触って観察して頂く活動も行いました。

今回はベテランメンバーが参加できなかったのが不安に感じていましたが当会の若手メンバーやたんさいぼうの会の方々の活躍のおかげで素晴らしい催しになったように思います。



マイクロバーの様子

実習室でのワークショップで見つかったプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 安達克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

- 8月から10月はわくわく探検隊はありませんでした。
- 9月はしかけ登録講座でびわたんの活動を紹介する時間を頂きました。
- 11月にフェス準備をしました。

◎びわ博フェス2023 11月19日(日) 10:00~

「いろいろな葉っぱを見てみよう」

16名の親子連れに参加頂きました。参加者に屋外展示で採集しておいた数種類の葉っぱを観察して頂きました。見た事ある!色が変わる葉っぱ!など葉っぱについて知ってる事をお聞きました。次に、葉っぱゲームをしました。一番大きい葉っぱはどれ?から始まり、○色を探そう♪つるつるした葉っぱ、丸い葉っぱ、緑がギザギザした葉っぱなど私からお

題を出してグループで話し合い一斉に「葉っぱっぱー！」の合図で出してもらいました。自分の顔よりも大きい葉っぱにびっくりしたり色探しをしたり、においを嗅いで甘い？醤油のにおいみたい、など会話が広がりました。最後に、葉っぱのミニランタンを作りました。気に入った葉っぱを選んで貼って、お絵描きして、可愛いランタンができました。

わくわく探検隊を知らない参加者もおられたので、次に繋がったらいいなと思いました。



ほねほねくらぶ

(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:半田 直人

【活動報告】

■10月1日(日) 参加者: 2名

ツキノワグマの解剖を行いました。

■10月14日(土) 参加者:6名

バイカルアザラシ、ミシシippアカミミガメの解剖を行いました。

このバイカルアザラシは、博物館の方で本剥製を制作された際に、残った頭部と胴体部なのですが、それを骨にするために徐肉作業を行ったのですが、胴体部だけでも結構な大きさがあり、骨の周りに残った肉を取るだけでもなかなか大変な作業となりました。

バイカルアザラシは以前にも解剖を行った事があったのですが、その時にもびっくりしたのですが、その目の占める大きさと、目と目の間の頭骨の薄さがものすごく薄くなっていて今回改めて見てみてもやはり驚いてしまいました。

またこの日は、活動の様子を JICA で研修をされている方々が見学に来て下さり、少しの間でしたがお話をすることが出来、いろいろな質問をしていただき、普段とはちがう雰囲気の中で活動が出来たので、とても良い経験になりました。

■11月11日(日) 参加者: 3名

バイカルアザラシの解剖を行いました。

■11月19日(日) 参加者: 4名

琵琶湖博物館において開催された、琵琶博フェス 2023 において来館者の方との交流活動を行いました。

私たちは大人のディスカバリールームを使用させていただいて、シカの骨を触ってもらうプログラムを行わせていただきました。

【活動予定】

■12月は2日(土)と17日(日)に活動を予定しております。

■1月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■11月18日(土) 参加者: 15名 (一般の参加者:11人)

活動内容:びわ博フェス(生活実験工房 和室)

今年度のびわ博フェスは、緑のくすり箱のイベントでも何度か実施している、「ビワの葉こんにやく湿布」の体験ワークショップを実施しました。

昨年のびわ博フェスは、お子さん中心のワイワイしたワークショップだったので、今年度は大人の方にゆっくりとした時間を過ごして頂けるイベントにしたいと考えて、企画しました。準備はそれほどかかりませんでしたが、なるべく安いこんにやくを求めて、いろんなスーパーに足を運んでくださったメンバーがいました。またビワの葉も沢山採取して下さったり、気温が低い日になりましたので、ひざ掛けをもってきて下さったりと、数日の間に連絡をしたことを、メンバーがしっかりと準備して下さったので本当に感謝しております。

当日のワークショップの日と時間帯が、初日の午前中ということもあり、あと生活実験工房というお客さんが気づきにくい場所にあるといった悪条件の中でしたが、ご年配の方から小さいお子さん連れのご家族もきて下さったので良かったと思います。

それと今年の秋に新メンバーさんが増え、こんにやく湿布は初体験の方もいらっしゃいましたので、一緒に体験して頂きました。

今回は、体験会ということもあって、体の痛い部分に短い時間で湿布をして頂きましたが、皆さん、とても温かくて気持ちよかったですと仰ってくださいました。こんにやくは家に持って帰って、水の入ったタッパーに入れ冷蔵庫で保管すれば、繰り返し利用が可能なので、参加者の方にお持ち帰りして頂きました。参加された方は、お家でご家族にもしてあげようと思う、と言ってくさったので嬉しかったです。



【参加者の感想】

- ・思ったよりじわじわと温かくて、気持ちよかったです。
- ・こんにやく湿布、早速家でもやってみたいです。

【活動予定】

- ・11月21日(火)10:00~12:00 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)
- ・12月3日(日)10:00~15:00 午前:小豆ピロー作り 午後:ロールオンアロマ作り(実習室2)
- ・12月23日(土)10:00~15:00 薬草入り餅作り(生活実験工房)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■9月23日(土) 18時~22時 参加者:8名 場所:大津市北比良付近

残念ながら当日は風が強く、コンディションは最悪でしたが、何とか数頭のヤマユガが飛来しました。それからムネアカハラビロカマキリやアオマツムシなどの外来種が飛んできました。虫の飛来が少ないため、予定より少し早めの10時過ぎに終了し、現地解散しました。



■10月21日(土) 10時~12時 参加者: 7名 場所: 琵琶湖博物館生活実験工房

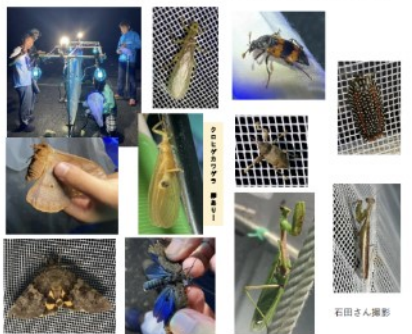
生活工房で11月に行われるびわ博フェスの準備を行いました。前半はポスター作り、後半は当日行う予定のプラ板作りの練習を行いました。久しぶりの屋内での例会となりました。



また、「虫架け通信」60号、61号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

2023年10月4日発行
 ■月刊会報告
 ■昆虫豆知識
 ■BMB虫日記
 ■記録・報告
 ■最後に

9月例会報告
 9月23日、大津平北比良イン谷で灯火採集を実施しました。残念ながら当日は風が強く、コンディションは最悪でしたが、何とか数頭のヤマユガが飛来しました。他にウスタビガなども来るのではないかと期待したのですが、飛来しませんでした。それからムネアカハラビロカマキリやアオマツムシなどの外来種が飛んできました。虫の飛来が少ないため、予定より少し早めの10時過ぎに終了し、現地解散しました。
 場所: 大津市北比良イン谷
 日時: 2023年9月23日 (PM6:30~10:00)
 参加者: 石田家(3人)、伊東家(2人)、武田、中川、八尋 計6人(五十音順、敬称略)
 ※10月の例会は11月のびわ博フェスの準備を行う予定です。(プラ板作りの練習も)



石田さん撮影

昆虫豆知識 (56)
 方の図鑑として使いやすそうなものを見つけました。山と溪谷社の「くらべてわかる蛾」(税込2310円)という本です。一般的な図鑑とは異なる状態の虫体が掲載されていますが、この本は実際に見たい時の姿のまま掲載されている点が良いところで、デメリットは太冊であることです。ですから実際の使い方はデジタルカメラやスマホで撮った画像を印刷して合わせて開定するのがよいのではないのでしょうか。今までは採集してきたが開定するのには、いったん乾燥してからでないとも出来ないが多かったわけですから早く開定出来るようになるのも悪くないです。(ただし、私は出版社から一冊もいたっていません。)

LBM虫日記 (23)
 先日博物館の前空き地の上を多く飛ぶ幼虫を見つけました。さっそく調べてみるとエビガラスズメ *Agrius convolvuli* の幼虫であることがわかりました。観察調査をしていると夕方砂浜に生えるハマヒルガオの茎からバグンダシながら、長い口吻を伸ばして吸汁する姿を窺うことができました。私はつまりり平地(低地)の畑だと思っていたのですが、8月の小入峠(標高800m)ライトトラップでも飛来したもので国内広く分布するのではないかと推測されます。和名は見ての通り腹面がエビの刺のように見えるからだと思います。また、翅のサツマイモの葉を食害する本種の幼虫もよく見かけます。食べてみればサツマイモ、ヒルガオも同じヒルガオ科の植物ですからまったく不思議ではないのですが、イモの葉を食害することから幼虫のことイモムシと呼ぶようになったらしいのですが、これは本当なのでしょうか。

記録・報告
 武田: 先日、博物館前の空き地でヒトリガを見つけました。白い翅に黒い点を有するヒトリガには似た種類が多いので種名がその場でわかりませんでしたので、ゼニムシ袋に入れて持ち帰り撮影しました。その結果、腹部が黄色いことからハラゴマダサトリ *Spilosoma lubricipedium sangatsuurae* であるとわかりました。食物はタワ科、バフ科、アブツナ科、マメ科とさまざまです。

最後に
 ★前回の巻面で小人蜂の蝶の画像について、一応種名(和名のみ)を報告しておきます。
 上段左: キンモンカレハガ、上段中: ヤマユガ、上段右: コウモリガ
 中段左: エビガラスズメ、中段中: キロスズメ
 下段左: オオヒメアオ、中後左: コシロオビダクガ、下段中後右: コマゴボク
 下段右: オニベシタガ (武田)
 ★今年は、形本町の博物館の館舎をきれいでいた方から誤っていただいたアジバカマの標本を育ててみました。未だアジバカマは飛来していませんが(いや、もしかしたら飛来したかもしれないが?) 翅や翅など結構いろいろな虫がやっています。琵琶湖博物館にも飛来情報があるので、そろそろかな...とワクワクしながら待っています。標本の種別のスペースですが、どうかアジバカマちゃん、翅が家のフジバカマに似ているおくれ! (写真はアジバカマに隠れるコアハナムグリ) (山本)

投稿募集中
 楽しいので、ついつい投稿に励んでほしいです。投稿への依頼もお待ちしております。
 yuritara1218@gmail.com まで
 編集: 武田、山本由美子



LBM虫架けグループ
虫架け通信 No.61

2023年10月29日発行
■10月例会報告
■LBM虫日記
■昆虫学知識
■記録・報告
■最後に

10月例会報告

10月21日(土)に生涯工房で11月に行われるびわ博フェスの準備を行いました。前半はボスター作り、後半は当日行う予定のプラ板作りの練習を行いました。久しぶりの屋内での例会となりました。

日時：10月21日(土)、10:00~12:00
場所：琵琶湖博物館生涯工房
参加者：石田家(3人)、今田、武田(昆虫のみ)、中川、八尋 計7人(五十音順、敬称略)



LBM虫日記 (24)

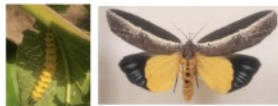
今回はヒメジャノメの話題です。今月の13日に博物館前の空き地で撮影したものです。ごく普通に知られるジャノメメダカ科の一種で、学名は*Mycalesis gotama*です。幼虫の食草はイネ科植物全般。本種によく似た種としてコジャノメ (*M. themisto*) が滋賀県から知られていますが、博物館周辺では見たことがありません。本種よりやや山よりの薄暗い環境を好むようです。ヒメジャノメの別名gotamaなのですが、近にある日玉塚(肥後)から五つつの日玉、五玉に由来していたらヤダッぽくて面白いなあ(おじさんの発想)と思ったのですが、もちろんそんなわけではないようです。親類(本名：ガウマ・シツダールタ、ハイリ種ではゴータマ・シツダールタ)から来ていると聞かれています。ヒメジャノメ、何か面白い虫のように思えてきました。



昆虫学知識 (57)

昨年あたりから滋賀県産の蛾類の中でシンジュキノカワガ (*Eligma narciusus*) がしばしば話題に上がるようになりました。以前から記録はあったのですが、昨年低産はもとより種(よ)や、今年は幼虫の姿も確認されました。種類はニワウルシ(またはシンジュ)と呼ばれる植物で、県内各地で見られます。ニワウルシは日本の産物の植物ではなく、種子を海外から持ち込みシンジュサンの飼育用の餌に使用されたことがわかっており、それでこの蛾が植物に付いて日本に侵入したのではないかと考えられています。一般的には本種は誘蛾燈と考えると日本でも越冬できないのではないかと考えられているようです。それで毎年6月の臨海前線に伴って中国大陸から飛来し、あるいは北九州で発生した個体群も含めて東へと分布を拡大しているものと推測されています。そのため日本で成虫が多く確認されるのは8月以降となるようです。現在のところ滋賀県では湖北で多く見つかっています。

また、たいへん興味深いことなのですが成虫は採集時殺死することやまゆの材料に幼虫の卵の毛を使うことも知られています。さらにまゆの中の蛾に刺激を与えるとシャカシャカと音を発するという奇妙な習性も持っています。機会があれば、是非会員の皆さんにもこの音を聞いていただきたいと思う次第です。なお、博物館には同様に鳴が興奮するナンキンノカワガ (*Gaitheria impingens*) が発生していますので探して見て下さい。なお、この類のキタの多くは宮田和重の「シンジュキノカワガ」(文一総合出版、日本の昆虫誌) から拾ったものであり興味のある方は私が撮影の集さんから買ってお返しできますのでお申し出ください。



記録・報告

武田：10月6日に水口町で行った灯火採集でコガタガムシ (*Hydrophilus fulvipes*) が採集しました。私自身初の採集になりました。水口町では川の河川敷の脇にありますが水口町内は初めての記録で、すでに甲府町、日野町、山田町、信濃町から記録されており、もともと奥平川の虫のようでも三重県から買ってきたように思っていますとのことでした。ガムシをスマートにしたような体形です。



最後に

★LINEでお知らせしたように来月のびわ博フェスでは一般の方々にプラ板作りを体験していただきます。是非会員の皆さんの参加協力をお願いします。(武田)

編集：武田道・山本由風子

【活動予定】

1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。11月はびわ博フェスでプラ板作りを行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責：伊東)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ担当職員：林 竜馬

【活動報告】

■ 9月23日(土)10:00~12:00頃 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

内容:トヨタ関係イベント(トヨタ ソーシャルフェス 2023)とびわ博フェス 2023の勉強も兼ねて博物館の屋外の森などの散策を行った。特にトヨタ関係イベントでの九つの体験ポイントと説明の段取りなどを検討した。(なお右の写真は九つの体験ポイントとは関係ない。)



■ 10月14日(土)10:00~12:00

参加者:(会員)4名 (博物館職員)林

内容:トヨタ関係イベント準備作業で配布シートの印刷や設置パネルのラミネート版作成などを行った。



■ 10月28日(土)10:00~16:00

参加者:(会員)7名 (博物館職員)林

内容:トヨタ関係イベントに参加で午前中はミッションパネルの設置などの準備をした。森人の出番は前半(13:20~14:10)と後半(14:30~15:20)の2回であった。前後半とも参加者を7~15名の3班に分け各班に森人2人が付き九つのポイント(下図参照)で解説を交えながらクイズとミッションを体験してもらった。時間的にはやや時間を超過するケースもあったが内容的には子供さんの熱心な質問もあり概してこのプログラムに興味を持ってもらえた感触が得られた。これを機に今後の活動に生かしていきたい。

①葉っぱをさわる 	⑦タネであそぶ 	④イガをさわる 
②化石の木をさがす 	⑧びわこを見る 	⑤どんぐりをさがす 
⑥大きい葉っぱを見つける 	③葉っぱを見る 	⑥においをかく 



■ 11月4日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

内容:びわ博フェス 2023 の準備を行った。ポスター展示と説明、19日(日)午後に予定のワークショップ(クイズラリー)の内容、備品、当日の段取りの検討をした。

【今後の予定】

◎11月19日(日)10:00~15:30

内容:びわ博フェス 2023 準備とポスター説明(午前)とワークショップ(午後)

◎12月9日(土)と12月23日(土)

内容:ツル植物の除草作業を予定

行替 道天

(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

びわ博フェスで、琵琶湖梁山泊は活動紹介のポスターを展示しました。2021年春のオンライン総決起集会を最後に、まとまった活動が行われていないので、どうしても古い話を中心にします。

3年あまりにもわたるコロナ禍で活動が停滞し、2019年以前に入会した会員は全て卒業あるいは退会しました。その後に入会して時々研究相談に来ていた会員たちもすでに受験生です。そのため現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しています。しかし元会員や卒業生たちはときどき琵琶湖博物館に遊びに来て、現在進めている研究の話などを聞かせてくれています。

【活動予定】

まだ COVID-19 は終息しませんが、5類移行後の最初の感染爆発(第9波)も収束し、私たちは日常生活を取り戻しつつあります。琵琶湖梁山泊も再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思っています。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方は上記代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



SALON DE 湖流
Lake Biwa Museum

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】

■ 11月5日(日)13:00~15:00 びわ博フェス 3分間トークの準備その他

場所:琵琶湖博物館実習室2 参加者:2名(はしかけ2名)

8月にメンバー(もと担当学芸員、現特別研究員)が夏休みの課題について博物館に相談してきた中学生に指導した実験を再度試み、「3分間トーク」で手際よく実演するための準備について検討しました。

併せて、今後の活動の方向性について若干の議論を進めました。

■ 11月19日(日)びわ博フェス参加

場所:琵琶湖博物館アトリウム 参加者:1名(はしかけ1名)

「3分間トーク」で「琵琶湖の深呼吸」に関する実験を実演しました。

(写真は8月の実験のときのもの)



【活動予定】

■ 今後の方向性については、メーリングリストなどで改めて議論を進めます。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和5年9月14日(木) 9:30-12:00 晴れ 参加者 6名

1. 活動先: 東近江市 池之尻町一帯

2. 調査目的

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、湖東地域の河岸段丘地域での谷筋河川や湧水を引き込んだため池が多く見られる東近江市の池尻町を調査した。同地域は谷筋水を集めた加領川から引水した恵美須溜を水源とした耕作地である。恵美須溜周辺とその西側に地名の由来とも言える池之尻町の特徴、水利用状況の現地調査を行った。

3. 調査地域の概要

池之尻町は旧愛東町の中央部、上中野町に位置する。江戸時代は彦根藩で村高は「正保郷帳」に341.5石とあり江戸時代を通じ、あまり変化はなかったようだ。同地域の灌漑用水は、加領川から引水確保した恵美須溜や湧水に依存していた。全体的には用水不足地帯で、明治四年作成と思われる「池之尻村耕作絵図」には村内の各所に「永荒・当荒」という年貢免除の記載がある場所が示されており、農業の困難さを物語っている。煙草専売法施行以降、煙草の栽培地に適した場所と指定され耕地面積が開墾により拡大した。但し、現在では煙草栽培はみられない。集落内を散策すると、村の旧入口、所謂、結界と呼ばれるところには、お地蔵さんが配置されており、献花やお水が供えられていた。周辺の遺物は下記通り

- ① 恵美須溜は湖東地方最大のため池。奈良時代に近畿に発生した大旱魃救済のため勅命により造営された。江戸時代、明治時代にも、改造工事を行い現在に至っている。
- ② 恵美須神社は在所の北東に位置し、鳥居をくぐって直ぐ左の小丘陵に「山の神」を祀る聖域があり、細い注連縄がかけられた結界が確認できる。毎年一月六日早朝、社主と若衆が集い、大繩を大蛇に見立てて切る行事とか、三つ股の松の木で男体で二股の松の木で女体をかたどった股木を作り安置する風習が今も伝わっている。
- ③ 八之塚古墳は村の北、愛知川流域の河岸段丘上段に位置している。この地域は弥生時代から開かれた地域で、当時の開拓指導者が埋葬されていると考えられている。築造年代や埋葬者を限定する資料は発見されていない。最も大きい5号墳は高さ3.4mあり、現在7基が確認されている。
- ④ 古墳部の中間に八之塚地蔵院がある。行基菩薩が開基と伝えられ、ご本尊は木造地蔵菩薩半跏像である。

旧愛東地域に残る風習の継承として、①氏子の中から毎年輪番制で神主を廻す習わし。周辺 12 集落で継承されている制度である。②津島祭と言われる京都祇園信仰と同じ牛頭天王信仰が毎年8月に行われる。③結界のしきたりとして集落の入口、四か所に地蔵さんが設置され、多方面からの魔除けとして守り伝えられている。④水神祭祀が毎年9月に恵美須溜で行われる。



□恵美須溜全景



□堤防下の弁天様



□山の神の神域結界



□恵美須神社鳥居



□二股・三股の股木



□結界の地藏さん

「参考文献」 1) 東近江市発行:東近江愛東の歴史ダイジェスト版、2)東近江市愛東町の歴史、第一巻資料編

■ 令和5年10月11日(水) 9:00-12:00 晴れ 参加者 7名

1. 活動先: 東近江市 園町一帯

2. 調査目的

今回も、前月に引き続き、湖東地方の河岸段丘に注目し、用水の水不足を溜池で解消して来た地域の調査を継続した。調査先は東近江市園町(旧愛東町園町)。集落の山側に位置する「郷溜」の実態と集落の位置関係に加え、集落内の様子も確認した。

3. 集落の変遷

- ① 江戸時代の村高は 520 石とあり、江戸時代を通じ大きな変化はなかったようだ。420 石あまりは彦根藩領で、他は幕府領、後には宮川藩領となった。
- ② 集落の生業としては、滋賀県物産誌(明治 23 年)では「地勢高低、道路凸凹なれども、貨物の運輸稍便なり。水利常に便なれば、米穀・煙草に適せり。」と記されている。その町は明治以降、煙草専売法の施行により先月訪問の池之尻町同様煙草栽培地に指定された。角井西瓜の栽培も盛んにおこなわれたようだ。
- ③ 用水・灌漑については、当地の田は、大覚寺の生ヶ谷から流れ出る小河川や小字瓦塚の「郷溜」・「市右衛門溜」の人工溜による灌漑が主であり、野井戸との併用でもあった。決して恵まれたものではなかったが、保水力のよい土地質で用水が不足することはなかった。「水利常に便なれば…」とはこういう事情を述べているものと言える。
- ④ 世帯数・人口の変化としては、統計を取り始めた明治 13 年(1830 年)43 軒、196 人、昭和 56 年(1981 年)44 軒、221 人、平成 12 年(2000 年)44 軒、210 人、令和 3 年(2021 年)64 軒、191 人と統計開始以来、あまり大きな変化はない。最近が高齢化がすすみ、核家族化傾向とは言え、同地域の居住者は住みやすい地域なのであろうと推測する。
- ⑤ 「郷溜」は 120 年前に造られた近代の人工溜池で平成 13 年改修されている。
- ⑥ 民族・風習に関しては、近隣集落同様、集落入口には地藏堂があり、日吉神社・津島信仰(牛頭天王信仰)・山の神信仰などの風習があり、地域の結界が守られている。日吉神社の村神主制度が引き継がれており、長男が地域に住んで慣習を守っている。
- ⑦ 集落を散策したが、こじんまりとした掃除が行き届いた静かな佇まいの集落である。村社である日吉神社は最近、本殿、祭殿との建て替えられたようである。本殿の左側に隣接して「山の神」と思われる小さな石塔が二つと、大木に注連縄がかけられていた。

⑧ 長らく守られてきた市街地調整区域による規制での農地の用途変更が抑制されてきたようであるが、近隣に工場用地や工業団地的な進出も見られている。物流拠点としての好立地な点を踏まえ、今後は一層の外的力の流入があるだろうと推測できる。



□郷溜 石碑



□郷溜 全貌



□日吉神社



□日吉神社 椎の大木



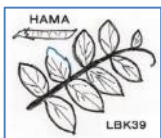
□「山の神」注連縄と石塔



□園町集落案内図

「参考文献」 1)東近江市愛東町の歴史、第一巻 資料編 2)東近江市愛東町の歴史、第一巻 本文編

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

*2023年10月3日(火) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:19°C (9時30分) 26°C (11時30分) 今日の琵琶湖の水位:-35cm 参加者:7名

観察状況 *すっかり秋模様。空気は澄んで対岸の山もくっきり見える。水は澄み波が静かに押し寄せている。爽やかな秋の風と日差しが感じられた絶好の作業日。

活動内容 ①ミーティング(作業上の注意事項の確認) ②保護区内及び西側保護区外の枯れた松の伐採(17本)と伐採した松葉を保護区内に敷き詰めた。③ネナシカズラ:本日は見当たらず。

海浜植物

*ハマエンドウ : 新しい茎が伸びて葉は緑が濃くなり大きくなった。ツルも伸ばしているものもある。特に松を伐採した西側保護区外は密集して大きく育っている。日陰がなくなった夏場の生育の観察と保護が必要。

*ハマゴウ : 花はまだ数残っている。枝に種がついている。種も黒く変色してきた。

*ハマヒルガオ : 葉は枯れているものもあるがまだ広がっている。



伐採後の松の株元に育成するハマエンドウ



花も残るハマゴウ



ハマヒルガオ



マツノマダラカミキリの幼虫



鷺も一休み



枯れ松葉を保護区域内に敷く

***2023年10月20日(金) 9時30分~11時30分**

天候:曇り 気温:25°C(11時30分) 今日の琵琶湖水位:-47cm 参加者:3名



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容 ①ミーティング ②枯れた松の伐採:ハマゴウ保護区内(12本)及び保護区外(西側)の(1本) ③ネナシカズラの削除:見当たらず。

海浜植物

***ハマエンドウ** : ・一段と新しい茎が伸びていて葉は緑が濃くなり大きくなった。最縁部の目印の割りばしから、40cm離れた所に芽を伸ばしているものもあった。・ハマゴウ保護区松林の西側にはチガヤと一緒に密集して大きく育っている。

***ハマゴウ** : 花はまだ数カ所残っている。

***ハマヒルガオ** : 葉は枯れているものもあるがまだ広がっている。



保護区外に運び出した枯れた松



保護区西の枯れた松(直径 25cm)



マツノマダラカミキリの幼虫

***2023年11月7日(火) 9時30分~11時30分**

天候:曇り 気温:18°C(9時30分) 20°C(11時30分) 今日の琵琶湖水位:-57cm 参加者:5名

観察状況 *浜も天気も晩秋模様。保護区内は落ち葉の絨毯を敷き占めたようだ。*波は荒く風も冷たく対岸の山もくすんでいる。*保護区内の小さな松も枯れ始め一本もなくなる日が近いように感じる。*日光はまだ暖かさを感じるが日陰での作業は寒く感じた作業日。

活動内容 ①ミーティング(びわ博フェスタについて・作業日について)。②保護区内及び浜の草取り(枯れたチガヤ等) ③ネナシカズラは見当たらず。

海浜植物

***ハマエンドウ**: 落ち葉に包まれて茎が広がり葉も緑が濃い。枯れている葉も少し見られた。

***ハマゴウ**: 花は見当たらない。枝には種がついているものもあるが葉は大半が落ちてしまった。

*ハマヒルガオ:葉は枯れているものもあるがまだ広がっている。



西側保護区外のハマエンドウ



葉も枯れてきたハマゴウ



ハマヒルガオ



小さな松も枯れ始めた

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 綿にふれてみよう!	昔の道具を使い、綿花から糸をつむぐ体験をします。当時の人々の知恵や努力を感じながら、綿がもつ自然の柔らかさに触れます。	2023年 12月9日	土	13時30分～ 15時00分	実習室2 生活実験 工房	※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。	2023年 12月17日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※多少汚れても よい服装をご準備 ください。 (受付時間 10 時00分～) ※要事前申込
ちこあそ・12月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2023年 12月20日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
【わくわく探検隊】 水鳥を観察しよう!	双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たち	2024年 1月13日	土	13時30分～ 15時00分	実習室2 C 展示室 樹冠トレ イル	※雨天決行

	の様々な違いに気づくことができるプログラムです。					
ちこあそ・1月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024年 1月17日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
里山体験教室 (第4回)	博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう！	2024年 1月21日	日	10時00分～ 15時00分	野洲市大 篠原 地 先	※4回開催分一括申込です。1回分だけの申し込みはできません。 ※少雨決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2024年 2月4日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※多少汚れてもよい服装をご準備ください。 (受付時間 10時00分～) ※要事前申込
耳石すごいぜ!!	魚の中にある耳石を取り出して観察してみよう！ 耳石をつかった研究やいろいろな魚の耳石も見る事ができるよ！	2024年 2月4日	日	10時00分～ 12時00分	実習室2	※汚れても良い服装でお越しください。
【わくわく探検隊】 ミニ水族展示をつくらう！	水族展示の裏側や工夫など、普段聞けない話を聞いたり、実際に展示している魚をモチーフにしたミニ水族展示を工作します。琵琶湖に棲む魚を身近に感じることができるプログラムです。	2024年 2月10日	土	13時30分～ 15時00分	実習室2 水族展示 室	※雨天決行
ちこあそ・2月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024年 2月14日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを同時に行います。	2024年 2月25日 ～ 3月10日		左記期間のうち任意の時間 (1時間30分程度)	オンライ ン	※登録にはボランティア保険料350円が必要 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

10月15日(日)には稲刈りを行いました。

幸い天候にも恵まれ、皆さん最後まで元気に作業をしてくださいました。

天日で乾燥させたあと、10月下旬には脱穀を行いました。

脱穀のあとには唐箕(とうみ)を使って粳と藁くずの選別作業を行いました。

また、びわ博フェス2023では、生活実験工房をたくさんのグループにご活用頂き、多くの来館者の方に喜んで頂けました。その時間は生活実験工房がまさに、博物館と地域をつなぐ「はしかけ制度」を体現した空間となっていたと思います。

さて、今後の工房でのイベントの予定は下記のとおりです。

(一般参加の場合は予約が必要です。応援スタッフとして参加頂ける場合は環境学習・交流係までご連絡ください)



稲刈り 10月15日

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房

12月17日(日) しめ縄づくり

2月4日(日) わら細工

担当：環境学習・交流係

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起きたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。